

トリトンアーツ共催公演

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第246回 定期演奏会



日本の楽器と合唱で彩る

リクリエーション

古今の名作再創造

～日本音楽集団×東京混声合唱団の新たなお江戸への道♪～



2025年9月6日(土)

14時開演(13時30分開場)

第一生命ホール



■主催
特定非営利活動法人 日本音楽集団
TEL:03-3378-4741 / <https://promusica.or.jp>

■共催
認定NPO法人トリトンアーツネットワーク
第一生命ホール

■後援
公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

1. 「秋風の曲」 主題による箏四重奏曲

(高橋久美子 作曲 / 2013年)

[箏I] 三宅礼子 [箏II] 渡辺正子 [箏III] 喜羽美帆 [十七絃] 石井香奈

光崎検校が江戸時代後期に作曲した「秋風の曲」は、三味線に付随した箏曲ではなく純箏曲の復興を目的としたものですが、その中に革新的な試みも多く取り入れた作品です。構成は前奏に六段からなる段物、そして六歌の組歌を合わせた形式となります。

この「秋風の曲」主題による箏四重奏曲は、前奏にあたる段物の部分のみを取り出して、箏四重奏に発展させたものです。曲の冒頭には秋の予感を感じさせるようなトレモロを多用した部分を付け足しました。オリジナルと同じ段物の形式をとっていますが、単に旋律を辿るだけではなく、全く原曲を離れロックのリズムや、西洋音楽に基づいた和音付け、また奏法などを用いて、現代の息吹を感じられる箏の合奏曲を目指しました。

またこの作品は「高校生のための箏合奏曲」創造プロジェクト(「もっと多くの優れた作品を!」と、作曲家グループ<邦楽2010>、演奏アドバイザー、楽譜出版(マザーアース)、広報・メディア(邦楽ジャーナル)によって構成)において作曲されましたが、今や、高校生だけではなくプロ、アマチュアを問わず多くの方に再演されるようになりました。本日、日本音楽集団の名手4人によって、どんな演奏が繰り広げられるかとても楽しみです。(作曲者)

2. フランス音楽メドレー

(秋岸寛久 編曲 / 1998年)

[笛] 新保有生 [尺八I] 田野村聡 [尺八II] 饗庭凱山 [三味線] 今藤政優 [琵琶] 藤高りえ子
[二十絃I] 熊沢栄利子 [二十絃II] 三宅礼子 [十七絃] 久本桂子 [打楽器] 山内利一 盧慶順

フランス人の作曲による、よく知られた名曲をメドレーにしました。日本音楽集団の各地の公演で、また、十三絃版はアマチュア合奏団でもたびたび演奏されています。

シンプルな3拍子の伴奏に乗って印象的なメロディーが繰り返し登場する、<ボレロ>。作曲者のラヴェルは今年生誕150年ですね。フランス歌曲の中でも特に美しいメロディーの一つ、<夢のあとに>。ハーブの分散和音に乗ってフルートがメロディーを奏でるオーケストラ版が有名な、<シシリエンヌ>。篠笛と箏にぴったりです。どちらも作曲者はフォーレ。ラヴェルの先生です。

独特の世界観を持つ孤高の天才サティの<ジムノペディ第1番>。個性の強い三味線の音色が不思議な雰囲気醸し出します。いかにも印象派らしいアンニュイなく亜麻色の髪の乙女。<邦楽>からは一番遠い世界のような気がします。そして<ゴリウオッグのケイクウオーク>。共にドビュッシーのピアノ曲ですが、こちらは邦楽器と相性抜群。

そしてチェロの名曲、サン＝サーンスの<白鳥>。「動物の謝肉祭」というユニークな組曲の中の一曲です。

どの曲も邦楽器で演奏しても魅力は失われません。名曲たる所以ですね。(編曲者)

3. 日本古謡に基づく三つの協奏的変容

〈大漁祝歌・子守歌・八木節〉

(今井重幸 作曲 / 1998年)

[笛] 芝有維 [尺八I] 原郷隆 [尺八II] 阪口タ山 [三味線] 二代目 三山貢正 [琵琶] 藤高りえ子
[箏I] 久東寿子 [箏II] 石井香奈 [十七絃] 久本桂子 [打楽器I] 多田恵子 [打楽器II] 盧慶順
[指揮] 箕輪健太

この曲は子供たちにも親しまれる様な分かり易く優しい曲と云う要望に応えるべく、広く知られている日本古謡の旋律の中より3つを選び、伝統的法楽器の持つ特殊性・音色感などを重要なテクスチャとして協奏的に変容した合奏曲です。

全体は連続する三章から成り、第一章は東北地方の宮城に伝わる通称「さいたら節」とも云う「大漁祝歌」をテーマに、第二章は中国地方の広島近郊に伝わる「子守歌」をテーマに、第三章は最も知られる関東地方の群馬・栃木に伝わる有名な名文句「またも出ました三角野郎が、四角四面の櫓の上で、音頭をとるとは憚りながら」と唄う「八木節」をテーマにした組作品です。

(第150回定期演奏会プログラムより)

4. 三つの阿波のわらべ歌

(三木稔 作曲 / 1960年)

[尺八] 原郷隆 [三味線] 穂積大志

[二十絃I] 熊沢栄利子 石井香奈 [二十絃II] 久東寿子 喜羽美帆 [二十絃III] 渡辺正子 森真理子

[十七絃] 久本桂子 木内麻由 [打楽器] 多田恵子

[合唱] 東京混声合唱団 (助演) [指揮] 箕輪健太

1. 中の中のこぼうさん - アンダンテ
2. 子守唄 - アダジェット
3. 猫の嫁入 - アレグレット

阿波はわらべ歌の宝庫である。しかし中には歌詞しか残っていないものもあり、この曲では伝承された旋律と、ふるさとのイメージをもとに作曲者によって作られた想像の旋律とがたくみに混合して使用されている。「中の中のこぼうさん」は「かごめかごめ」と同種類の遊戯であり、「子守歌」は殆んど創作による作曲者の望郷の歌である。また「猫の嫁入」は同名の手まり唄による、快活で小さなバラードである。(第2回定期演奏会プログラムより抜粋)

5. 合唱と和楽器合奏のための音楽劇

「お江戸の音楽隊」

(米津知実 脚本・福嶋頼秀 作曲 / 初演)

[笛ソロ] 新保有生 [尺八ソロ] 田野村聡 [三味線ソロ] 山崎千鶴子 [琵琶ソロ] 久保田晶子

[笙] 東田はる奈 [箏] 三浦元則 [尺八] 饗庭凱山

[二十絃I] 熊沢栄利子 喜羽美帆 [二十絃II] 久東寿子 三宅礼子 [十七絃] 久本桂子 木内麻由

[打楽器I] 山内利一 [打楽器II] 多田恵子

[合唱] 東京混声合唱団 (助演) [指揮] 箕輪健太

音楽劇《お江戸の音楽隊》は、グリム童話「ブレーメンの音楽隊」を下敷きに、舞台を江戸時代に移した新作です。歌にお芝居に多彩な表現を誇る東京混声合唱団8名と、日本音楽集団15名による多種の和楽器合奏のコラボレーションならではの物語にするべく、馬・犬・猫・鶏といった動物たちに加え、街の人々、泥棒、殿様と家来まで登場し、ワクワクドキドキの展開となります。作曲技法では、「馬=ソプラノ=琵琶」「犬=男声=尺八」「猫=アルト=三味線」といったように声と楽器を対応させ、それぞれのキャラクターを鮮やかに描きます。また例えば、雅楽で活躍する箏と笙の音色が江戸城の雰囲気を表す、といった仕掛けにも、お気づきになるかもしれません。

駿府から江戸へ向かう道中、動物たちは「武士の馬になりたい」「芸妓になりたい」と夢を語りますが、泥棒との遭遇をきっかけに…その後の展開と込められたメッセージにもぜひ注目ください。

合唱と和楽器が響き合う、笑いと驚きに満ちた約30分の音楽劇。書き下ろしのイラストの投影と共にお楽しみください!

【助演】東京混声合唱団(8人編成)



1956年に創設された「東京混声合唱団」、今や海外を含めて年間150回に及ぶコンサートを開催する日本を代表するプロ合唱団のメンバーで編成される混声合唱の声楽アンサンブル。各人の高い演奏技術と音楽性で、大編成とは違ったアンサンブルの醍醐味を見事に表現している。レパートリーは多彩を極め、ルネッサンスの無伴奏合唱曲から日本の抒情歌、国内外の民謡など幅広いプログラムに加えて、最近のコンサートではメンバーによるソロの歌唱も交えることで、その演奏には高い評価を得ている。

【ソプラノ】岡崎陽香、中道友香 【アルト】石田彩音、島田沙樹

【テノール】島崎涼、星野文緑 【バス】高橋雄一郎、小幡淳平

